

# 古着支援プロジェクト

## ●第17回2009年度 古着支援要項

2009年も以下の要項に従って古着を集めます。ご協力、よろしくお願いたします。送り先と受け付け期間を間違えないようお願いいたします。衣料品以外のものは対象外ですので御了解ください。

◎支援先(予定): タイにあるミャンマー難民キャンプ

◎古着の種類: とくに5才以下の幼児の衣類が必要です。子供と大人の衣類(夏冬ものすべて)ズボン、ティーシャツ、スカート、ワイシャツ、ジーパン、背広、トレーナー、ジャージ、カーデガン、セーター、コートなどタオル、シャツも可

◎古着の状態: 洗濯に出したもの、あるいは自分で洗濯してアイロンをかけたものにしてください。

◎古着の個数: ダンボール箱、7000箱(40フィートコンテナ7台)

※送り先が変わりましたのでご注意ください

◎新しい送り先: 〒140-0003 品川区八潮2-8 ジャパンエクスプレス内1F佐川グローバルロジスティクス(電話: 03-3790-6791)(現地への持ち込み可、宅配業者は自由)

◎受付期間: 2009年6月1日(月)～10日(水)(10日間、この期間に到着するようにお送りください)

◎ダンボール箱の大きさ: 引越し用段ボール箱大のおおきさまで(縦・横・高さの合計が1.5mまで)

◎送料募金: ダンボール1箱あたり、1500円(古着の寄付だけは受け付けていません。送料カンパを条件としています。荷物と一緒にカンパを送られますと、そのまま現地まで送られてしまいます。ご面倒ですが郵便振替で送金ください)

### ●カンパ送金先

郵便振替口座名称: わかちあいプロジェクト  
口座番号: 00130-7-762258  
(古着送料募金とお書きください。振替用紙は郵便局にあります)クレジットカードで募金ができます

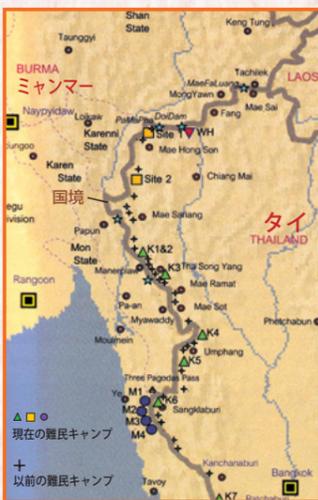
### ◎現地受入団体: TBBC

Thailand Burma Border Consortium

## 2008年古着支援報告

皆様のご協力によりまして、7000箱の目標に対して、7023箱が寄付され、募金も10,091,020円寄せられました。ありがとうございました。

9箇所の難民、15万人に1枚づつ支給するという目標が達成されました。



## 2009年の募金目的と目標額

- 難民、国内避難民ほか支援 760万円  
古着などのコンテナ費用
- ミャンマー学生寮建設 120万円
- カクマ難民キャンプと  
タンザニア難民キャンプのため 120万円

**募金目標額 1000万円**

### 募金の送金先

郵便振替口座  
わかちあいプロジェクト募金  
00130-7-762258

## 2008年度 わかちあいプロジェクト 収支決算報告書

2005.4.1～2005.11.30(8ヶ月間)

前年度繰越	2,540,885円
コーヒー等売上	21,038,974円
募金	11,011,190円
その他の収入	2,030円
貸付金戻り	432,187円
預り金	59,247円
<b>収入合計</b>	<b>32,543,628円</b>
コーヒー等仕入れ	15,080,156円
カクマ難民キャンプ	544,500円
ミャンマー学生寮建設	1,000,000円
ミャンマーサイクロン被災者支援	500,000円
タイミャンマー難民キャンプ	5,027,694円
その他の支援	312,927円
税金	410,074円
活動費	730,849円
事務管理費	6,577,637円
貸付金	302,130円
借入金返済	271,086円
預り金納付	37,910円
<b>支出合計</b>	<b>30,794,963円</b>
繰越金	4,289,550円
	会計 網信幸



古着支給に立ち会った石井さん、大嶋さん、大下さん



わかちあいプロジェクト

フェアトレードは世界の豊かさを分かちあい共生する経済のしくみです

# わかちあい プロジェクト NEWS No.24

2008 DECEMBER

タイのミャンマー メラ難民キャンプ 2008年8月6日



## 学生寮をつくるためのミャンマー訪問

松木傑 わかちあいプロジェクト代表

2008年3月26日成田を出て同日夕方、ヤンゴンに到着しました。アジア学院の研修を受けたミャンマー・バプテスト・コンベンションの会長をされているシャカワエイ牧師が出迎えてくださり、翌日は2つの農業研修センターを訪問しました。一つのセンターは現在使用されていませんが、研修が充実して成功するに従い政府が、研修会を開くと1回ごとに負担金を請求して金額をどんどん増額して、結果として閉鎖に追い込まれたためです。コンベンションの現在の目標は、教会数を1500から

2000まで増やすことだということです。現在会員は35万人だそうです。翌日、Heho空港まで1時間、ミャーさんが出迎えてくれて、それから凸凹道を5時間かけて、Kaya州の州都 Laikaw に到着しました。ミャーさんが属するKaya Baptist Associationは1983年に元のバプテスト教会から分かれて伝道を開始した教会です。Kayaの中でさらに方言が分けられているとのことで、分かれて協会を作ったそうです。現在、40教会、会員は4千人です。(3頁へ続く)

発行 2008.12(年1回発行) わかちあいプロジェクト  
130-0022 東京都墨田区江東橋 5-3-1 電話: 03-3634-7809 FAX: 03-3634-7808

編集者 松木 傑 郵便振替口座: わかちあいプロジェクト募金 00130-7-762258 (募金用)  
わかちあいプロジェクト 00180-6-758331 (代金支払用)

# あなたの買い物が世界を変える 「フェアトレード」

特定非営利活動法人フェアトレード・ラベル・ジャパン (FLJ)  
事務局長 中島佳織  
http://www.fairtrade-jp.org



皆さんは買い物をするとき、どんなポイントで商品を選んでますか？値段、味、デザイン、もしくはブランドでしょうか？日本は多くの食品や衣料品を開発途上国からの輸入に頼っています。国産に比べて安く購入できることが多く、私たち消費者にとってはありがたいことかもしれませんが、私たちが値段ばかりを気にして買い物をすることで、その商品を生産する人が利益どころか生産にかかるコストすら得られない状況を作り出してしまい、そのことが深刻な貧困問題や環境破壊を引き起こすことに繋がっているかもしれないとしたら？

変動の激しい国際市場価格は、ときに生産コストを大幅に割り、経済的基盤の弱い開発途上国の生産者の貧困に拍車をかけ、生産を継続できない状況へと追いやってしまいます。そんな現在の「アンフェア」な国際貿易の構造を問い、南北の経済格差を解消する「もう一つの貿易の形」として始まったのがフェアトレードです。コーヒー、紅茶、バナナ、カカオなどを栽培する開発途上国の生産者へ正当な価格を保証し、より公平なパートナーシップのもと、経済的、社会的、環境的に持続可能な世界を目指す貿易の形です。そして私たちフェアトレード・ラベル・ジャパンが国際組織の一員として推進しているのが、フェアトレード・ラベル運動です。経済的・社会的・環境的側面から定められた国際フェアトレード基準を守って生産・取引された商品であるかどうか定期的に監査し、合格した商品にのみ「国際フェアトレード認証ラベル」の貼付を許可します。それにより、多くの企業もフェアトレードに取り組むようになり、普通のスーパーマーケットや百貨店でもフェアトレード商品が売られるようになって、欧米を中心にフェアトレード運動が飛躍的に拡大しました。消費者は、その商品が間違いなくフェア

トレード基準を守っていることをラベルによって確認し、商品を選ぶことができます。

フェアトレード認証ラベルの貼付された商品は、その原料を生産する開発途上国の小規模生産者や労働者が民主的に組織を運営し、環境に配慮して生産していること、そしてその原料を輸入する業者が、生産コストをまかない、かつ持続可能な生産と生活を支えるフェアトレード価格とプレミアム（奨励金）を生産者に対して保証していることを第三者機関によって監査・認証されています。フェアトレード認証を受けている小規模生産者組合と農園数は、過去10年間で3倍に増え、2007年12月時点で632に及び、中南米、アフリカ、アジア58ヶ国に広がっています。約150万世帯、家族を含め推定750万人の人たちにフェアトレードによる利益がもたらされ、2006年、通常取引の場合と比較した生産者の収入の差は約160億円増とされています。生産者・農園労働者が自ら民主的に話し合い、地域の社会発展のために用途を決定して運用するプレミアム（奨励金）は、フェアトレードの取引が限り継続的に受け取ることでできる資金であり、多くの地域で非常に大きな変化をもたらしています。例えば、日本とも取引のあるエチオピアのオロミアコーヒー生産者組合連合では、2001年のフェアトレード認証取得以来、小学校5校、医療センター5棟、飲料水配給所27ヶ所の設置をプレミアムによって実現しており、現在中学校2校を建設中ということです。

私たち消費者は、とかく数字や目に見える「形」での貢献を求めがちですが、フェアトレードが生産地域にもたらすものは数字だけではありません。市場へのアクセス、長期的な取引による安定性、生産者のエンパワメント、女性の地位向上、



FLJ事務局の中島さん(左) 等々力さん(右)

教育の充実、環境改善など、現在の不均衡な国際貿易では特に立場の弱い途上国の生産者だけでは成し得にくいことを可能にするのがフェアトレードなのです。

日本ではまだまだ認知度の低いフェアトレードですが、欧米ではフェアトレードが当たり前の社会になりつつあります。イギリスでは50%以上の人がフェアトレード認証ラベルの意味を知っていると答え、スイスではその割合が90%にもなります。最近では日本でもだいたいエコの意識が定着してきましたが、フェアトレードという視点はまだまだ馴染みが薄いようです。「持続可能性＝サステナビリティ」という言葉からは環境保護を連想しますが、環境を守るためには当然そこに暮らす人びとの生活も経済的、社会的に持続可能でなければいけません。フェアトレードという「チャリティ」とか「寄付」というイメージをもたれますが、地球環境や生産者たちの人権や労働環境に配慮して作られた商品かどうかを問うことは、私たち消費者一人ひとりに課された責任といえるのではないのでしょうか。「モノを買う」という日々の何気ない行動を通して、私たちは本意ながら世界の誰かを苦しめてしまったり、環境を破壊しているかもしれません。しかし、逆に、責任を持って商品を選ぶという、とてもシンプルな行動一つひとつで、私たちは世界をいい方向に変えることもできるのです。

1992年ドイツの教会を訪問したことがきっかけで、日本で最初のフェアトレードラベルコーヒーカフェマムが1993年春に発売され、1993年11月トランスフェア・ジャパンが設立されました。その後10年を経て、2004年2月、フェアトレード・ラベル・ジャパンと名称を変更して特定非営利活動法人として法人化しました。2008年12月現在、2名の専任スタッフを置くまでやっと成長してきました。(松木)

# 教育支援プロジェクト

カンボジアからミャンマーへ



ナウリー ミャーさん

〈表紙から続く〉

30日の礼拝は、事務局長の Rev.Kyaw Htoo の教会に出席しました。4月1日からはじまる伝道25年の記念会に集まった青年たちも参加して礼拝堂は一杯でした。あとで聞きますと会員の多さにかかわらず教会の財政は逼迫して、事務局関係スタッフ20名の年間予算は6千ドル(60万円)ほどで、ミャーさんの給料が500円でボランティアで働いているというのが理解できました。公務員の月給は30ドル、ヤンゴンのコンベンションのスタッフは25ドルと言っていました。Kaya州は、外国人が入れない地域で、何度も宣教師が入国(入州)を申し出たが拒否されているようで、私が最初の牧師であると紹介されました。今回は私がフェアトレードでコーヒーを取引していることをミャーさんが強調して入州が許されたようです。従って参加を予定していた教会行事には参加しないで、コーヒー産地を Karenni Nationality Peoples Libration Front(KNPLF)の副議長の案内で、Kayaには7つの政治的組織があって、5つはミャンマー政府と妥協(平和合意して、戦争を停止)して共存しています。Frontはそのなかの最大グループで、まだ武装解除してなく、みずからの占領地域を治めているようで、広大な地域にコーヒーを栽培しています。2つのグループは戦争停止に合意しないので、ジャングル地帯で争っています。その地



礼拝の様子



購入した土地 水も電気もありません

域の人たちが、難民となってタイ国境の難民キャンプに住んでいます。カレン族のほか、シャン族も戦っています。

カレン族の中もさらに分かれていて、今回ずっと同行して下さった Myar Doo Myars さんはチェンマイのパヤップ大学で言語学を学び、カレン語から現地の言語にさらに翻訳して、新約聖書の翻訳が完成し、記念行事で献呈するそうです。アメリカ人の言語学者とチームを組んで1節1節翻訳しているそうです。

今回の訪問の目的は、ミャーさんの夢である中、高等学校に行けない山岳地域の子供たちのために学生寮をつくるための準備で、購入予定の土地を見ること、この計画を実行するための委員会を設置してもらいその方たちにお会いして計画について話し合うためでした。

その目的は十分に果たすことができ、感謝しています。今後は楽しみです。



委員会に集まってくださった方々

2009年の目標は、井戸を掘って水を確保すること、ソーラパネルを設置して、最低限の電気を確保して、学生寮の建築に取りかかることです。皆様ご協力ください。

## カクマ難民キャンプから



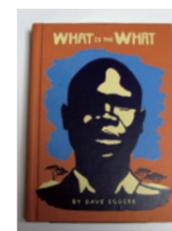
私の名前はジョージです。ケニア人です。LWFのカクマ難民キャンプの青年担当スタッフとして1992年にキャンプが設置されて以来働いています。最初はスーダン難民だけでしたが、その後、ソマリア、ブルンジ、エチオピア、ウガンダ、コンゴ、エリトリアの難民が集まっています。

さまざまなスポーツプログラムを作って大会を開き、時には地域の大会にも難民チームとして参加します。

また、演劇グループや障害者のグループ、美術グループの展示会なども開催して、難民の青年たちが、自分の才能に目覚めて、将来への希望が持てるように励ましています。

カクマ難民キャンプは私に多くのことを教えてくれました。プログラムを通じて世界中の多くの人たちに出会うことができました。その中でも思い出す人は故高村憲明さんです。彼は献身的で、謙遜で模範となる人でした。彼はすべての人を平等に扱い、すべての人と友達になりました。

彼を通してなされたわかちあいプロジェクトの動きは現在でも多くの人に影響を与えています。



わかちあいプロジェクトの現地スタッフとして、高村さんのもとで働いていた、スーダン難民のパレンチノの伝記的小説が、2006年アメリカで出版されました。この本でも高村さんとの出会いのことや、交通事故で高村さんが亡くなったことについて書いています。

### 2008年わかちあいプロジェクト古着支援配布報告

難民キャンプ名	配布箱数	配布期間
SITE 1, MAE HONG SON	975	2008年8月20日～9月15日
SITE 2, MAE HONG SON	195	2008年8月20日～9月15日
MAE RA MA LUANG, MAE HONG SON	815	2008年11月1日～11月30日
MAE LA OON, MAE HONG SON	810	2008年11月1日～11月30日
MAE LA, TAK	1945	2008年8月20日～9月15日
UMPIEM, TAK	790	2008年8月20日～9月15日
NU PO, TAK	790	2008年8月20日～9月15日
DON YANG, KANCHANABURI	225	2008年8月20日～9月15日
THAM HIN, RATCHABURI	322	2008年8月20日～9月15日
TAK州の難民キャンプ周辺の村	98	
Total	6965	

\* 輸出の書類上は7023箱となっていますが、実際に受け取った数は6965箱でした。数え間違いか、紛失によるものと思います。9難民キャンプすべてに配布することができました。また、キャンプ周辺のタイの村にも配布しました。(TBBC)

